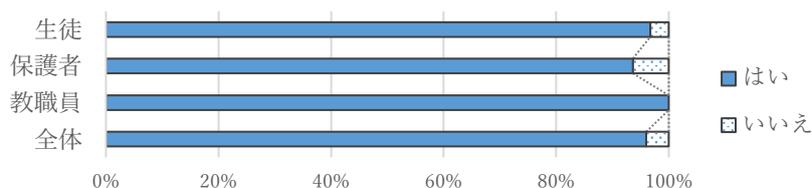


令和4年度学校評価アンケート分析結果 I：基礎学力の向上

1 (1) 先生方の教え方はわかりやすいですか。

・生徒・保護者・教職員ともに9割以上が「はい」と回答しました。

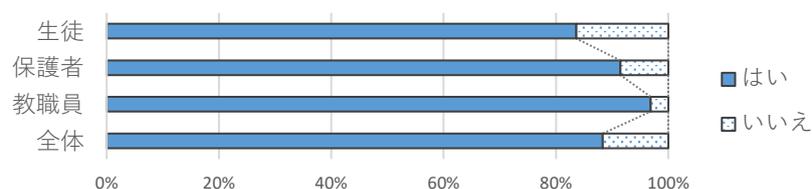
『全体的に昨年度より「はい」と回答している教職員・生徒が多いです。ICT機器を活用し、よりきめ細かな学習指導を展開できていると考えられます。』



2 (1) 1年間の授業時数は、十分に確保できていると思いますか。

・生徒・保護者・教職員のほとんどが「はい」と回答しました。

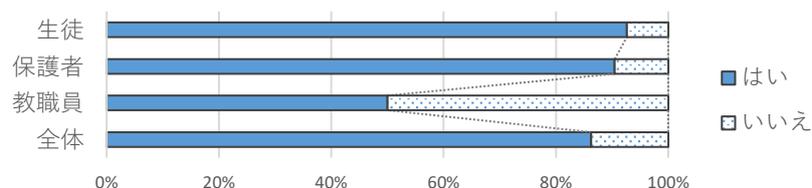
『昨年にくらべて、授業時間の確保や進捗について生徒の理解が進んだものと考えます。今後も引き続き各教科指導の充実に努めていきます。』



3 (1) 「必履修科目」「履修」「修得」といった言葉を理解していますか。

・生徒・保護者の9割が「はい」と回答しました。一方、教職員は5割しか「はい」と回答しませんでした。

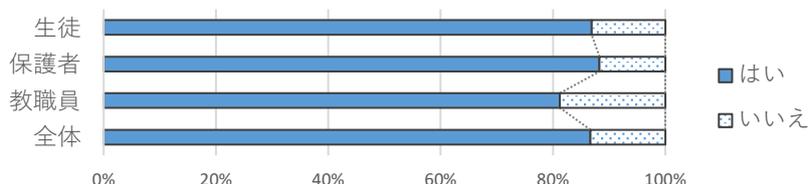
『生徒や保護者は、履修・修得の意味を理解しているようですが、教職員からすると、まだまだ理解が不十分であると感じているようです。今後、教科のガイダンスや進路指導の中で、生徒の単位制システムに対する理解をよりきめ細かく手助けする必要があります。』



4（1）基礎学力は向上したと思いますか。

・生徒・保護者・教職員の約8割以上が「はい」と回答しました。

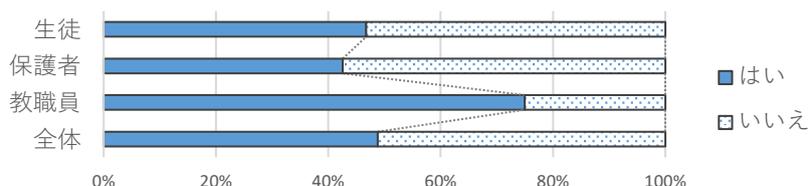
『基礎学力が定着していると考えられます。しかし、昨年度よりも教職員の「はい」という回答が減少しており、授業での取り組みや週末課題・進路講座などで確かな学力向上を図っていく必要があります。』



4（2）家庭学習を行っていますか。（教職員：家庭学習を行うよう指導をしていますか。）

・教職員の7割以上が「はい」に対し、生徒・保護者の5割未満となっています。

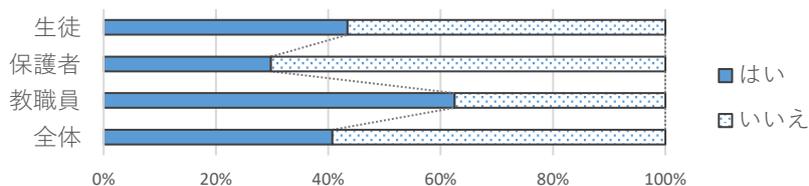
『生徒の家庭学習状況は昨年に比べ良くなっていますが、家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多く、教職員と生徒の回答に差があることから、家庭学習をするよう指導されているものの、実行できていないという状況にあります。』



5（1）読書する習慣が身についていますか。

・教職員を除き、生徒・保護者で約4割を下回っています。

『図書館の利用やホールルームでの読書活動を増やし、読書する機会を増やす必要があります。教職員間で問題意識を持って取り組まなければなりません。』



総合所見

ICTの活用やグループ学習など、授業の展開を工夫し、基礎学力の定着を図るよう教職員は努めており、本校の習熟度別授業は、生徒の学力に応じ、授業内容を合わせることができるため、基礎学力の向上に最適であると考えています。生徒の大部分も、教え方がわかりやすいと感じているようです。一方で、家庭学習の時間の確保や読書の習慣化において課題があります。今年度、学び直しの時間「みどりベース」を設定し、希望生徒が取り組んだ結果、「勉強の仕方がわかった」との回答があったことから、少しずつですが改善が見られます。今後も、この問題点を教職員間で共有し、新しく導入された一人一台端末の利用やアクティブラーニングの実施、外部講師の活用など、より充実した教育活動を進めます。